	令和5年度第2回鎌倉市地域福祉計画推進委員会 議事録
開催日時	令和6年(2024年)1月19日(月) 午後2時~午後3時30分
開催場所	鎌倉水道営業所 2階 会議室
出席者	川上 富雄(駒澤大学文学部社会学科教授) 千代 美和子(鎌倉市民生委員児童委員協議会会長) 國分 哲男(鎌倉市肢体不自由児者父母の会会長) 町田 綾(かまくら子育て支援グループ懇談会) 田中 良一(鎌倉市社会福祉協議会常務理事) 新津 豊(鎌倉市自治町内会総連合会副会長) 木山 晃子(公募市民) 小池 晃(公募市民) (欠席) 植月 縁(公募市民) (欠席) 奴田 不二夫(みらいふる鎌倉副会長)
傍聴者	なし
事務局	矢部 健康福祉部次長兼福祉総務課長 内藤 福祉総務課課長補佐 山田 福祉総務課福祉政策担当
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 会議の公開について (2) 鎌倉市地域福祉計画進捗状況報告書(案)について (3) その他 3 閉会
配付資料	資料1 鎌倉市地域福祉計画進捗状況報告書(案) 資料2 第1回地域福祉計画推進委員会 ご意見に対する回答等 資料3 鎌倉市地域福祉計画推進委員会名簿 資料4 令和5年度第2回地域福祉計画推進委員会座席表 資料5 資料1の委員会の講評及び市の総括(抜粋) 資料6 鎌倉市地域福祉計画推進庁内連絡会議事録 参考資料 鎌倉市重層的支援体制整備事業パンフレット
会議の結果及び主要な発言	
	1 開会
事務局 (内藤)	事務局から事務連絡等 (1) 会議の録音・公開について 記録のため、会議の録音をさせていただきます。委員氏名と議事録を後日、市ホームページに掲載する予定です。
委員	全員了承

事務局 (内藤)	(2) 会議の成立について 10名中8名出席、過半数に達しているため、鎌倉市地域福祉計画推進委員会 条例施行規則第3条第2項により成立。
事務局 (内藤)	本日は傍聴の希望者はいらっしゃいませんが、鎌倉市審議会等に関する指針 第3条3号の規定に基づき特別の事情がある場合を除き、会議は公開するこ ととしておりますのでご承知おきください。
事務局 (内藤)	(3) 配布資料の確認 資料1から資料4、及び当日資料として資料5、6を配布しております。資 料5は資料1の抜粋、資料6は鎌倉市地域福祉計画推進庁内連絡会議事録と なっています。不足資料がございましたら挙手にてお知らせください。
	1 議事
事務局 (内藤)	これ以降の議事につきましては、川上委員長に進行をお願いいたします。
川上委員長	改めましてよろしくをお願いいたします。 本計画は、前回、前々回と委員の皆様からご意見を頂戴したうえで、修正を 重ねてきております。ただし、行政言葉のような難解な表現も多く見受けら れるので、市民の皆様理解してもらえらる表現にしないでほしいとも思 っております。前回の委員会で頂戴したご意見に関して、該当箇所を修正し ましたので、委員の皆様にご意見を頂戴したく思いますので、早速議事に入 らせていただきます。 それでは、議事(2)地域福祉計画推進状況報告書(案)についての説明を お願いいたします。
事務局 (内藤)	昨年10月23日に実施した 令和5年度第1回委員会において各委員から頂 きましたご意見・ご質問を反映し、推進状況報告書案を作り直しました。 また、令和6年1月11日に、鎌倉市地域福祉計画推進庁内連絡会を開催しまし た。 本日は、鎌倉市地域福祉計画推進庁内連絡会のご報告をさせていただいた上 で、皆様には、新たに作成した部分をご確認頂き、ご意見等を頂きたく存じ ます。今後の流れとしましては、本日の皆様からのご意見を盛り込んだ報告 書を確定版として、公表してまいります。 それでは、まず、資料6「鎌倉市地域福祉計画推進庁内連絡会議事録」をご 覧ください。連絡会では、目標1から5の取組にかかる事業の紹介や現状の 情報共有・課題について、出席者から発言がありました。 まず、目標1 総合的な相談体制の確立に関して、こどもみらい部から、令 和5年4月に開設した「かまくらこども相談窓口 きらきら」について、利 用状況の説明がございました。利用者からは好意的な意見が多く聞かれてお り、利便性をさらに拡大するため、現在は、月に1回、平日に20時まで開

設している他、土曜日にも月に1日開設しています。また、ファミリーサポートセンターの出張窓口も開始しています。

次に、共生共創部から、令和2年度に開設した「くらしと福祉の相談窓口」について、説明がございました。年に2,000件程度の相談を受け付けております。市民の方は、ご自分が何に困っているか、どこに相談すればよいか分からないことが多いため、職員がまずゆっくり話を伺い、複雑な状況の紐解きや背景にある困りごとを見極め、担当課につないでおります。また、福祉サービスでは対応できないものについては、弁護士や司法書士への相談にもつないでおります。

次に、目標2 包括的支援体制の構築に関して、健康福祉部を代表し、わたくしども福祉総務課から、令和4年4月に開始した「重層的支援体制整備事業」について、概要を説明いたしました。

これまでの福祉政策は、子ども・障害者・高齢者・生活困窮者といった対象者ごとの支援体制で人びとが持つ様々なニーズに対応してきましたが、人びとが生活を送る中で直面する困難・生きづらさは多様化・複雑化し、8050、ダブルケアなど、これまで提供してきたサービスと必要な支援の間にギャップが生じてきています。

その一方で、地域の様々な動きに目を向けると、人と人とのつながりや参加の機会を生み育む多様な活動を通して、関係性が豊かなコミュニティが生まれている活動もあります。

こういった状況を背景に、重層的支援体制整備事業は、福祉の『縦割り』をまたぎ、「支え手」「受け手」という関係を超えて、支え合い、つながりあえる社会を目指し、福祉の分野を問わない相談対応、支援、地域づくりを整備しながら、世帯全体を包括的に支援できる体制を整えていく取組です。具体的な取組については、参考資料をご覧ください。

このほか、目標5まで、庁内から関連する様々な取組の報告がございましたので、後ほどご確認ください。

なお、来年度以降は、各課からの施策に関し、市としてどう評価していくのか、どんな課題があるのかを連絡会で議論し、その内容を推進委員会に報告し評価をいただくとともに、その評価を踏まえて、次年度以降の取組にどのようなようにつなげ、市として地域福祉をどう推進していくかの議論を行うことで年度の最終評価としたいと考えております。

続きまして、資料1及び資料2を使ってご説明します。

まず、資料2をご覧ください。前回の委員会で委員の皆様から頂戴したご意見を事務局でまとめ、所管課からの回答を反映したのになります。上から順に1から7までの回答を記載しております。このうち、2、4については、

回答に伴い資料1の記載内容が変更になっており、その部分を抜粋し、資料2としてお示しいたしております。それと同様に資料2の別添資料1も修正しております。

また、進捗管理表右端の項目の「地域福祉の推進にあたって、課題や方向性の転換の必要があれば、記載してください」が「特になし」となっている事に対し、B評価している取組が多いという事に違和感がある事のご指摘もいただいておりますので、庁内連絡会にて記載の意図を改めて説明し、認識の共有を行いました。「方向性の転換」の言葉の捉え方の幅が大きいため、来年度は記載方法を再考いたします。

ここで、本日欠席の植月委員から事前にご質問を頂戴していただきましたので、その内容とそれに対する回答をお伝えいたします。

進捗管理表 1-1-2-12「生活困窮者に対する相談支援体制の充実」がC評価となっている中で、「R4の取組における課題と課題解決に向けてR5に予定している取組（対応）を記載してください」の内容が課題になっていないのではないかとのご指摘がありました。

生活福祉課と協議した結果、次の通りの回答を変更したく思います。

まず、令和元年度に設定した実績目標値として、相談を受けたものに対して、自立に至ったその42%としております。このため、42%を達成していないR4をC評価としています。一方、数値が時代背景に沿った目標設定になっておらず、修正が必要との認識も聞き取っています。近年、自立の在り方として、経済的自立だけでなく、まずは社会から孤立しないことも自立の一つの考え方があり、所管課としては、自立の幅を捉え直していく必要があるとの課題を有しているとのことです。

併せて、「地域福祉の推進にあたっての課題や方向性の転換の必要性」については、時代背景に合わせた目標の再設定に向け、関係する相談支援機関に広く意見を伺いながら考え方を整理していく旨を記載したいとの事でした。

以上、委員からのご意見を反映し、所管課による修正・見直しをした結果、目標1から5それぞれの総合評価は40ページに記載のとおりとなりました。総合評価は、Aを3点、Bを2点、Cを1点、Dを0点として合計点を出し、全てA評価だった場合の点数と比較し決定したものです。達成率は目標1が90%、目標2が同じく88%、目標3が91%、目標4が86%、目標5が94%となり、全て達成率75%以上のA評価となりました。また、目標1から5全体では、達成率89%でA評価となりました。

最後に資料5「資料1の委員会の講評及び市の総括（抜粋）」をご覧ください。前回委員会時点での講評及び事務局の総括を記載しております。

	<p>「取組の実績において、会議や研修会の回数のカウントだけで評価するのではなく、問題解決の視点をもって令和5年度は評価をする」「実績の表現が前年度と同じであれば、1つの枠だけを読むだけで内容がわかるようにする」として、総括は昨年度のご指摘を基に、新たな項目を設けて、チェックリストを作成し、状況把握を行うことで担当課と認識を揃えることとしました。こちらの内容につきまして、今まで説明を踏まえたうえで、ご確認をお願いいたします。</p> <p>こちらの議事の説明は、以上でございます。</p>
川上委員長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>前回の意見に対する内容は、資料2に整理しており、そのうち、進捗状況報告書や別添資料1に修正があったものは下線強調している部分になります。また、植月委員からの質問について、先ほど事務局から説明があったとおり、支援の目標設定も多様になり、社会復帰からの自立だけが目標ではない。関係機関と協議しながら、自立の在り方を時代に沿った目標設定しなくてはいけないとの整理で理解しました。</p> <p>ここまで説明をしてもらった中で、資料2の回答が質問の意図に沿っているかも踏まえて、何かご質問等あればお願いします。</p>
國分委員	<p>自立に対する新しい考え方はいつ出てくるのでしょうか。理念先行で始めると後で苦しむと思います。現場から意見を吸い上げて作成したほうがよいです。また、生活困窮者とは何をもって自立なのかを伺いたいと思います。</p>
事務局 (矢部)	<p>生活困窮者の場合は、現在は、経済的な自立が評価指標になっております。</p>
國分委員	<p>地域福祉計画推進庁内連絡会（以下、「庁内連絡会」という。）について聞きかせてください。年2回行くと聞きましたが、何を求めてやられているのでしょうか。地域福祉計画には数多くの取組ありますが、全部は見きれないので、運営の仕方を検討したほうがよいと思います。焦点を絞らないといけないと思います。ちなみに、庁内の体制としては、事務局が各課からのとりまとめを行い、それらについて、庁内連絡会の場で各部の次長級を通じ全体的に各課へフィードバックするものと思います。一方、委員会として、客観的な意見をどこまで述べればよいか、引き続き考えていきたいと思います。</p> <p>また、来年度、鎌倉市ケアラー支援条例が施行されると思いますが、進捗管理を地域福祉計画推進委員会で行うと聞きました。市が策定した鎌倉市ケアラー支援条例に関して、集中して議論したほうが良いのではないのでしょうか。であれば、年2回でも理解できます。</p>
川上委員長	<p>大変貴重なご意見ありがとうございます。まとめると意見としては2つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内連絡会の役割について ・ケアラー支援条例と地域福祉計画の関連性から委員会は何をすればよいか

	と理解しましたが、何か事務局から説明できることはありますか。
事務局 (矢部)	<p>改めてのご説明となりますが、市は、地域福祉計画の施策を5年間かけて推進しています。毎年施策の進捗管理を行い、目標に向かって進めているか、を判断するために、自己評価を行いながら、委員の皆様にも評価をもらい、次年度に活かしていくような流れだと認識しております。</p> <p>また、本来であれば、各施策に関して、庁内連絡会で各課を所管する次長が評価し、さらに全体の進捗を評価したうえで委員会に諮るプロセスがあります。今年度の庁内連絡会では、思うような整理が出来ませんでした。庁内連絡会と委員会との関連性は先ほど述べたプロセスの部分だと認識しています。</p> <p>次に、鎌倉市ケアラー支援条例につきまして、介護、高齢者、障害者問わず身近な人をケアしている人は、自身の生活の負担が重くなり、生活の選択肢の幅が狭まっている方もいることから、ケアラーという視点をもって支援をしていくために、条例案の準備をしています。庁内で検討した結果、次の鎌倉市議会2月定例会で条例案を提案いたします。</p> <p>また、ケアラー支援の施策を誰がどのようにチェックしていくかについて、ケアラー支援の取組は多岐に渡るため、地域福祉計画と同じ視点で評価するのが適切と考えていることから、地域福祉計画推進委員会の中で諮りたいと考えています。評価をする上で、ケアラー支援に関する分野にご意見をいただけるような臨時委員を招き、地域福祉計画及びケアラー支援の評価をしてもらえればと考えています。</p>
川上委員長	<p>ケアラー支援施策の進行管理を地域福祉計画で行うこと、それに伴い臨時委員を加える事について、事務局から相談を受けていたところでした。議事(3)のその他で委員の皆さんに後ほど相談をしようとしていたところでした。子育て支援(チャイルドケア)、障害者及び高齢者がいる家族の支援はケアラー問題に関わってきます。ケアラー支援にかかる施策は、地域福祉計画と領域が重なってくるため、ケアラー条例の施策にかかる進行管理を含めて良いという事でした。</p> <p>委員会の在り方についてですが、実際のところ、年2回の委員会で、各部に跨る全体の実施状況を緻密に進行管理するのは難しいところではあります。資料5には委員会の講評、総括をまとめているところですが、委員会としては、全体を見渡しながらか、地域福祉計画で立てた目標が進んでいるのかという視点で意見を言えればよいと思っております。ただし、全体的な評価をするためには、各取組の評価も必要な部分もあるので、委員会において進め方等意見があれば、事務局と相談してやっていきたいと思っております。</p>
木山委員	<p>年2回の委員会で、委員会前に急に資料が送付されても読み切れません。内容を振り返りながら確認するため、時間を要してしまう。なるべく早く資料を頂きたいです。ただ、資料はうまく纏められていると感じました。</p>
川上委員長	<p>私も計画を振り返りながら確認しています。資料が膨大なため、全部を読み</p>

	込んで評価するのは難しいです。
小池委員	総括のところですが、年度の表記がよくわかりません。「令和4年度における課題及びその解決に向けた対応について、各課から現状の課題などを抽出できたので、令和5年度はそれらの課題への対応にも取り組んでまいります」と記載がありますが、あと3か月もない中で何をするのでしょうか。
川上委員長	令和5年度は令和4年度の実績の評価について意見交換をしています。おっしゃる通り、令和5年度の実績に意見を反映するとなると、今年度も残りの期間も少ないので、令和6年度の市の実績に反映してもらえるような意見になります。
事務局 (矢部)	令和4年度の実績について、令和5年度の残りの期間も令和5年度以降も今回の評価に基づいて行っていきたいと考えておりますので、表現をどうするかは検討します。
國分委員	令和4年度の実績報告書を令和5年度に作成していますが、将来を考えるとそれにこだわらなくてもよいと思います。つまり、令和5年度に令和6年度の実績もしてよいと思っています。年内に時間軸に合わせるとすると業務的にも難しいのは分かりますが、実績に関して、予算に関わるものでなければ意味がない思いもあります。資料は1年遅れのものになるので、令和4年度の実績を使って令和6年度の実績もしてよいと思います。 もう一点として、各課にまたがる課題の解決方法について、シミュレーションをして報告してほしいです。各課は法律や条例に基づいて業務を行っていると思いますが、課を跨ぐ問題が出る案件については、各課がどのように動くかというシミュレーションをしておくかという点からです。具体的なイメージをもって庁内連絡会をやっていただく必要があると思います。
川上委員長	まとめると意見としては2つ ・令和4年度の実績のあり方について ・部局をまたがる課題の解決のあり方について と理解しました。 まず、令和4年度の実績について、先ほど事務局からもありましたが、年度表現は令和5年度以降に改めれば、令和6年度も含めて改善及び改革に取り組んでいく意味合いになると思います。 何か事務局から説明できることはありますか。
事務局 (矢部)	まず、実績のあり方についてですが、該当年度の実績を各課に評価してもらい集約する現状の流れだと、事務局の作業量からどうしても時間を要してしまいます。次年度予算に反映できるような流れにすると、それが可能となるような評価の在り方、集約の仕方について検討していかなくてはならないと思います。 次に、シミュレーションを、というご指摘に対してですが、例えば、ケアラー支援をどのように組み立てるかという点について、ケアラーの課題を抱える世帯に対しての支援をシミュレーションしている例があります。また、重

	層的支援体制整備事業で、ケアラーだけでなく複合的な課題がある世帯に対してどのように支援をしていくか、課題ごとにシュミレーションしています。さらに、居場所づくりの部分では、福祉的な視点だけでなく、町内会と繋がりがあある市民防災部との連携や、孤独・孤立対策での0次予防の観点などを持って検討しています。横ぐしをさす必要性に応じて、課題ごとにシュミレーションしているところです。
國分委員	まだ資料として纏まっていない段階でも良いから、次年度予算に間に合うよう、委員会に出して良いのではと言っています。もちろん行政として、難しいのは分かっています。
事務局 (矢部)	現在の評価方法は、従来のやり方で行っています。本日頂いた意見の中で、大きな視点で評価を行うような形であれば、在り方の検討は進めていけるかと思います。
事務局 (内藤)	地域福祉計画のP.11をご覧ください。本市の地域福祉計画は、こども若者育成プラン、高齢者保健福祉計画、障害者基本計画等の上位計画となります。各取組の進捗の把握は、他の計画でも確認が可能ですが、地域福祉計画に位置付けられた5つの大きな目標に基づいて鎌倉市の福祉政策が適切に進んでいるかの評価は、この委員会でしか検討できません。 一方、評価する場合、その根拠として、各取組を一つずつ確認していただく必要があるとも考えています。ただ、細部の取組ではなく、地域福祉計画の本質的な議論をすべきなのはその通りであるとも考えますので、繰り返すにはなりますが、評価の在り方は検討していかなくてはいけないと感じます。
川上委員長	全体評価をする上で、各事業の取組報告はあったほうがよいと思いますし、全体としての視点で鎌倉の福祉が進んでいるのかを評価するのが委員会の役割では思っています。 また、予算の改変が伴うような話であれば、評価作業が8月頃に終わらないといけないと思います。
國分委員	市が作成した条例に基づいてやっていることに評価するポイントを絞るのはどうでしょうか。例えば、来年度施行する鎌倉市ケアラー支援条例は良い例だと思います。
田中副委員長	地域福祉計画の委員会は、鎌倉市の取組全体の進捗管理を行うことが必要で、なにかに絞って議論することは相応しくないと考えます。また、鎌倉の地域福祉が進んでいるのか大きな視点で議論することは当然必要だと思います。大きい視点で議論するのであれば、各目標に記載されている成果指標は第4期基本計画の市民アンケートに基づき数値化されたものですので、この数値を用いるのがよいのではと思います。
新津委員	ABCD評価の判断の仕方について、特にCDといった評価をしているものは、難しい取組を数値化している事も考えられます。達成が困難なような取組を評価しているように見えています。
川上委員長	地域福祉計画の評価の仕方について、様々なご意見を頂戴しましたが、来年

	度以降の評価の仕方を事務局と相談させていただきたく思いますので、現時点では預かりという形にさせていただいてもよいでしょうか。
事務局 (内藤)	委員会から講評を頂くにあたり、本日の委員会は委員会の在り方、進め方についての議論がメインとなっております。本報告書の講評につきまして、現在の案は進捗管理表の記載の仕方の工夫についての内容となっておりますので、地域福祉をどう進めていくか、そのためにはどういった視点を庁内に広めていくかといった内容も記載していただければと考えています。
川上委員長	私たちが地域福祉計画を評価するうえで、計画を改めて見直さなくてはならないと同時、内容を振り返りながら、委員会で議論を進めていく必要があると感じています。
木山委員	地域福祉計画の振り返りを行ってもらえると、とても助かります。
川上委員長	それでは、特にご意見がなければ、今後の委員会の進め方についてと委員会の講評を預らせていただき、講評につきましては、本日の委員会で出た意見を踏まえて私が加筆いたします。その後、皆様に確認いただいた上で、確定させていただいてもよろしいでしょうか。
委員	(了承)
國分委員	勘違いしないいただきたいのですが、地域福祉計画を評価するうえで、本日のような資料は必要です。
川上委員長	時間も迫ってきておりますので、(3)その他の議題に入りたいと思いますので、事務局から説明をお願いします。
事務局 (内藤)	先ほど矢部からも説明がありましたが、現在、福祉総務課では、ケアラー支援にかかる取組として、ケアラー支援条例の制定に取り組んでいます。 この条例は、全てのケアラーを包括的に支援することでケアラーの孤立を防ぐとともに、お互いを尊重し合い、支え合い、多様性を認め、自らが望む形で社会との関わりを持ち、生涯にわたって安心して自分らしく暮らすことのできる社会の実現に寄与することを目指し、全てのケアラーが個人として尊重され、健康で文化的な生活を営むことができるよう、定めるものです。 そこで、今後ケアラー支援にかかる具体的施策が各課から出てきますが、地域福祉計画で管理している取組と位置づけとしては同じようなものになりますから、地域福祉計画で進行管理を行いたいと思います。鎌倉市地域福祉計画推進委員会条例第5条に基づき、臨時委員を2名増やしてケアラー支援全体の進行管理を行う予定であります。 今後のスケジュールですが、令和6年市議会2月定例会において条例案を提案し、令和6年4月1日の施行を目指しています。 ケアラー支援にあたっては、ケアラー本人への支援のみならず、障害・高齢・困窮・こども等の従来の枠組みでの支援の充実を引き続き図り、世帯全体への包括的支援を行うこととし、ケアラー支援全体の進行管理は、地域福祉計画推進委員会、庁内では庁内連絡会により行い、福祉総務課が横軸を通して

	担当して参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。
川上委員長	ありがとうございます。議事（２）でも少し触れましたが、この委員会でケアラー支援条例の施策の進行管理をしていくということで、来年度は臨時委員を２名増やしたいとの事でしたが、何かご意見ありますでしょうか。
委員	（意見なし）
川上委員長	ご意見なしという事で、臨時委員の選定は事務局に一任することにいたします。それでは、本日予定していた議事は以上でございます。その他、何か事務局から報告等ございますでしょうか。
事務局 （内藤）	委員会の講評として、委員長からご意見をいただき、それを委員の皆様にもご確認いただいた後に委員会の講評とさせていただきます。それ以外の部分に関しては、特に修正等のご意見もなかったということで、推進状況報告書の確定版を作成し、３月中には公表して参りたいと思います。 なお、来年度の委員会につきましても、皆様に引き続き御協力いただきたいと考えております。 別途開催日時等は通知いたしますので、お願ひいたします。
川上委員長	ありがとうございました。 先ほども申し上げました通り、来年度の委員会の進め方については、事務局と打ち合わせをさせていただいて、また日程も含めて早めに皆さんにご案内できるようにしたいと思います。
	— 了 —